



社会福祉法人 すこやか福祉会
株式会社 ファミリーケア
2011年7月1日 第18号
＜4月・7月・10月・1月 年4回発行＞

葛飾やすらぎの郷 グループホーム福さん家 開設10周年を迎えて

特別養護老人ホーム 葛飾やすらぎの郷

早いものでもう10年が過ぎてしまいました。本当に月日の経つのは早いものですね。

「在宅にすみ続けたい」でもそれが叶わない場合でも、安心できる終の住処をとの期待に応えて葛飾やすらぎの郷が誕生したのは2001年4月のこと。80名の入居募集に400人を超える応募があり、高齢者の置かれている状況の深刻さを改めて認識させられたものです。

職員の合言葉は「あたかも在宅で暮らしているかのように」でした。食事でも決められたものでなく選べるようにしたい。お風呂もゆったりとお湯に浸れるようにしたい、それも同性介護で。月に1回は行事を行なおう。おいしいコーヒーを飲んでゆったりとした気分。外出も増やしたい…。夢の実現には大変な困難が伴いました。入居者の状況や人的な制約など多々ありましたから。諦めたこともたくさんありましたが、ボランティアのご協力やご家族の理解、何より職員の熱い情熱が1つ1つ夢を現実に変えてくれました。その一つが毎週行なわれるコーラスと年1回行なわれる「若葉コンサート」。屋上での花火観賞はやすらぎの郷最初の行事。地域のご協力ですます盛会成为るバザーなどなど。

最期まで安心して入居し続けていただくためにも、役職員の奮闘はもちろんのこと、皆様のご支援・ご協力を心からお願いいたします。

すこやか福祉会理事 『葛飾やすらぎの郷』 初代施設長 竹森 チヤ子



グループホーム 福さん家

10年前の5月1日、グループホーム福さん家がオープンしました。白石定祐氏、敏光氏ご兄弟のご好意で家を提供していただき実現できました。

認知症の人の支援の切り札といわれた『グループホーム』をどう運営するか…。試行錯誤の認知症の人の小規模共同生活。“自分たちのことは自分たちで”“共に関わりあって”“社会とつながって”主体的に生活し、生きることができるよう支援する『共同生活支援』の始まりです。

第一日目から、夕方に「そろそろ家に帰ります」と外出する入居者に付き添って2時間外を歩きました。ハプニングの連続でいったいどうなるのだろうとハラハラドキドキ。

しかし、「さあ、お昼ごはん、何にする?」「そろそろ夕食の買い物にいかないとね」「きょうは天気もいいので浅草の花やしきまで遊びに行こうよ」と、目を輝かせて自分たちで自由気ままにその日を過ごされる姿に圧倒されました。自分たちで旅行を企画してあちこち温泉旅行を楽しんだりして生ききっているように見えます。

「認知症の人の見方、かかわり方を大きく変えなければならない」「認知症の人は一見何もできなくなったように見えるけれどそんなことはない。かなりのことができる。やって差し上げる介護ではなく、認知症になっても主体的に自分の力で生活し生きていくことを支援しよう」そんなことを学びました。

実践したことやその中でわかったことを『生き返る痴呆老人』(筑摩書房、2003)を出版。全国から共感をえています。

これからさらに多くなる認知症の人が、自分らしく伸び伸びと生きることの支援にいっしょになって取り組んでいきましょう。

すこやか福祉会理事 『福さん家』 初代ホーム長 宮崎和加子

すこやか福祉会・ファミリーケア 2010年度決算報告

社会福祉法人すこやか福祉会

○貸借対照表(資産の状況)

単位:千円

科 目 名	前年度	当年度	増減額
資 産	3,691,738	3,966,568	274,830
負 債	1,428,605	1,646,238	217,633
差引純資産	2,263,133	2,320,330	57,197

○資金収支計算書

単位:千円

科 目 名	当年度予算	当年度	予算差
経常活動収入	2,573,836	2,576,913	3,077
経常活動支出	2,527,332	2,529,666	2,334
【経常資金収支差額】	46,504	47,247	743
【施設整備資金収支】	84,431	84,634	203
【財務活動資金収支】	28,474	45,585	17,111
《当期資金収支差額》	159,409	177,466	18,057
《前期末資金残高》	208,833	208,833	0
《当期末資金残高》	368,242	386,299	18,057

○事業活動計算書

単位:千円

科 目 名	前年度	当年度	増減額
事業活動収入	2,463,642	2,674,742	211,099
事業活動支出	2,469,332	2,699,638	230,306
【事業活動収支差額】	▲ 5,690	▲ 24,896	▲ 19,206
【事業外収支差額】	5,708	8,356	2,648
《経常収支差額》	17	▲ 16,541	▲ 16,558
【特別収支差額】	39,506	42,066	2,560
《当期収支差額》	39,523	25,525	▲ 13,998

2010年度は、4事業所、1分室をあらたに開設しました。
名称、開設年月、開設場所は以下の通りです。

＊東金町小 ひよどり学童保育クラブ

2010年4月 葛飾区東金町

＊あおと介護保険相談室（居宅支援事業所）

2010年5月 葛飾区青戸

＊地域包括支援センター青戸 亀有分室

2010年5月 葛飾区亀有

＊グループホームすこやかの家 業平

2010年12月 墨田区業平

＊小規模多機能サービスすこやかの家 業平

2010年12月 墨田区業平

○貸借対照表(資産の状況)

新規事業所の開設に伴い固定資産が増加し、資産額から負債額を引いた差引純資産額は前年度より5千7百万円増加しました。

○資金収支計算書

財務活動資金収支で予算を1千7百万円超過したのは、運転資金借入金が増加したことによります。

○事業活動計算書(損益計算書)

葛飾やすらぎの郷（特養）を除くほぼ全ての事業で事業収入が増加し、前年度より約2億円の増収となりました。特に訪問介護・入浴事業では14事業所で8千4百万円の増収となりました。しかし、新規事業の開設前雇用の人件費や職員賃金の処遇改善などにより人件費も2億円を超えて増加し、事業収支は悪化しました。事業外収入で一般の寄附金収入、特別収入で施設整備に係る寄附金収入があり、当期収支差額は2千5百万円の黒字となりました。

株式会社 ファミリーケア

○貸借対照表

単位:千円

科 目 名	前年度	当年度	増減額
資 産	332,633	305,153	▲ 27,480
負 債	427,273	411,468	▲ 15,804
純資産	▲ 94,640	▲ 106,316	▲ 11,676

○損益計算書

単位:千円

科 目 名	前年度	当年度	増減額
事業収益	444,998	457,614	12,615
事業費用	437,304	464,485	27,181
【事業利益】	7,694	▲ 6,871	▲ 14,565
《経常利益》	3,645	▲ 9,976	▲ 13,621
《当期利益》	2,881	▲ 11,676	▲ 14,557

○貸借対照表(資産の状況)

減価償却による固定資産の目減りや流動資産の減少により資産額が負債額以上に減少しました。

○損益計算書

合計の事業収入は前年度より1千2百万円増加させていますが、介護事業7事業所のうち3事業所は減少させています。一方、事業費用は人件費の大幅な増加により前年度より2千7百万円増加し、収支を悪化させました。

本部事務局〒120-0023 東京都足立区千住曙町4-16

TEL 03-5813-9251 FAX 03-5813-9252

URL すこやか福祉会 <http://www.sukoyaka-fu.or.jp>

URL ファミリーケア <http://www.family-care.co.jp>

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により、被害を受けられた皆さまに、心よりお見舞いを申し上げます。

すこやか福祉会及びファミリーケアが所属する、東都保健医療福祉協議会では、東北地方太平洋沖地震により被災を受けた宮城県への被災地支援を、現在まで9チーム計130人滞日数543日行っております。その内、すこやか福祉会・ファミリーケアの介護職員・ケアマネジャーの現地支援者は計16人で122日となります。

宮城県にて避難所になった特別養護老人ホーム宮城野の里に支援にいった支援者の報告を掲載します。

東北地方太平洋沖地震 被災地支援活動に参加して 《支援期間延長を志願!!》 グループホームみたて 御代田 祐介

《何もない、言葉にならない》

3月27日～4月6日まで宮城県にある特別養護老人ホーム宮城野の里で支援活動を行いました。

現地は海に近づくにつれ、被害は甚大であることがわかり言葉がありませんでした。あるべきものがあるべき場所がない。見通しが良すぎるこの光景は、一生忘れることはありません。

私の役割は宮城野の里内に設置した福祉避難所の運営とショートステイ、デイサービスのフォローです。オリエンテーションを担当してくれたのは、私達より早く来ていた北海道からの支援者の方々でした。まずびっくりしたのは「明日帰ります!」の一言。翌朝には帰ってしまい、何も知らない私達の悪戦苦闘の時間が始まりました。

《自分が残るしかない!》

第4次支援隊は、30日の午後には帰ることになっていましたが業務を手探りで行っているうちに「これを繰り返していたら何も進まない。今の福祉避難所に足りないものは何かを考えるのに、2～3日では何もできない」と感じました。また、すでに辛い別れを経験している被災者である入居者の方々に、1日か2日おきに支援者が「今日で帰ります!」という挨拶を何度もするのはどうなんだろうとも思いました。どのような支援体制が求められているのかを考える時間も必要だと感じ4月5日まで支援を延長することに決めました。

《無我夢中の数日》

2日目～3日目になると、新たな支援者と共に限られた人員で有効に時間を使えるシフトを考えたり、足りないものを支援物資から調達するなど、少しずつ先が見えてきたような気がしてきました。

《印象に残ったお話》

「(60台の女性)津波が来てからは本当に早かった。みんな車で逃げるから、道が混んで・・・デイサービスの車が抜け道に入ってくれて、お父さん(夫)助かったんだ。それ以外の車はみんな波にのまれ…」

《長期支援者が到着!》

4月2日には、3ヶ月くらい支援に入れる方が見えました。その方にオリエンテーションを行って、1日一緒に動き伝えたことで、やっと本当の意味で先が見えたような気がしました。短期間では難しい・長期的な支援者を配置してほしいという希望も伝えました。避難所の様子を伝えるため新聞も作りました。

5日の朝には帰る予定でしたが、夜勤者が足らず、もう1泊延長し6日朝、宮城野の里を出発しました。



《支援を終えた今思うこと、望むこと》

- ・地震発生から日が経つにつれ、心のケアが非常に重要になってきています。
- ・長期的な支援が望ましいとはいえ、そももいかなない現状の中で、短期の支援者が力を発揮できる場所、長期の支援者が力を発揮できる場所を最大限考慮して支援者の配置をしてほしいです。

全ては被災者の為に…

グループホームみたて 御代田 祐介



ちよつと一枚
グループホーム福さん家

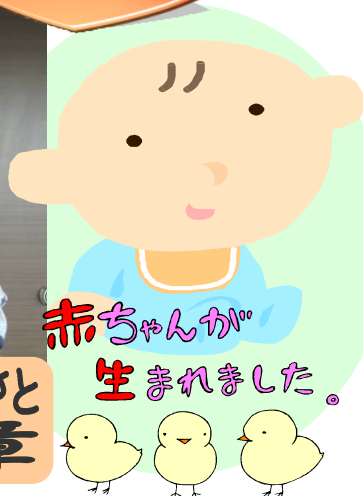


「隅々まで」

所長の ココロ ⑧



ケアステーションみさと
町田 章



皆様、こんにちは。

本年度よりケアステーションみさとの所長に就任いたしました町田 章（まちだ あきら）と申します。

早いものでファミリーケアに入社し、約3年半となりました。ケアステーションみさとは訪問介護を行う事業所として365日稼働しています。

当事業所のヘルパーは現在20名おり30代～60代まで皆個性豊かで力強く、それでいて優しく、この未熟な所長を支えてくれています。この仕事に就き所長という立場になり、改めて強く感じていることがあります。それは「上に立つ人間は周りのサポートがあってこそやっていける」ということです。その分ヘルパーさん達に何かあった時「何が何でもどうにかしてみせる」「俺が守らにゃ誰が守る!」という気持ちで日々の業務にあたるようになりました。もちろん訪問介護員ですから訪問も欠かしません。利用者さんとの時間は事務で疲れ果てた体を一気にリフレッシュさせてくれます。

「やっぱり訪問って良いなあ」と思う瞬間です。これからもヘルパー丸となり頑張っていきたいと思います。

最後に私事ですが、2月に子供が生まれました～! ああ、可愛すぎて仕事に身が入らない（笑）



いや、頑張らねば! こんな町田を皆様よろしく願い致します。



6月19日（日）毎年恒例の葛飾やすらぎの郷にてチャリティーバザーを開催しました。

ここ数年天候が悪く、室内での開催でしたが、今年は天候にも恵まれ、ボランティアの方のご協力もあり、盛大に開催することができました。

このチャリティーバザーでの収益は506,958円でした。収益の半額を東日本大震災の義援金として寄付させていただきます。

すこやか福祉会を支援する会
特別養護老人ホーム 葛飾やすらぎの郷

大盛況のバザー会場



支援する会への入会方法

支援する会に入会ご希望の方は、下記までご連絡願います。

申込書及び郵便振替用紙を送らせていただきます。

また、ご質問などございましたらご連絡ください。

連絡先 Tel 03(5648)8250 やすらぎの郷
Tel 070(5558)8327 町田



考え、事業所内の適切な温度設定に努めます。

ご自宅でも熱中症にならないよう、十分お気をつけ下さい。

節電の夏を迎え、当法人でも消費電力 15%減を目標にしておりますが、入居者利用者の皆さんを第一に